

# 海洋環境の変化に伴う 新たな有用海藻の利活用研究

(予算区分 [研究費] 研究期間 2026～2028 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 山田博一

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 黒潮大蛇行等による海洋環境の変化により、カジメやモク類等の大型海藻の衰退が確認される一方で、これまでほとんど見られなかった海藻の着生も確認されています。
- ・ その中には新たな利用が期待できる種があります。例えばトサカノリは、伊豆諸島や九州西岸では食用として漁獲されていますが、伊豆半島では本格的な漁業活動は行われていません。
- ・ また、カギケノリは伊豆半島西岸のテングサ場で着生が拡大しており、牛のゲップ中のメタンガスの抑制に寄与するブロモホルムを含有しています。地球温暖化対策への利活用の期待から、養殖研究が進められていますが、実用段階には至っていません。
- ・ そこで、黒潮大蛇行等の影響を受けた伊豆半島沿岸域の海藻の着生状況を把握するとともに、新たな利用が期待できる海藻を選択し、漁獲対象としての可能性を検討します。



写真1 トサカノリ



写真2 カギケノリの群落 (左) と藻体 (右)

## 【期待される効果】

- ・ 漁獲及び商品化に向けた課題が解決した場合には、漁業者に採取を働きかけることで、新たな収益源の確保が期待できます。

## 【年次計画】

細目課題	2026年度	2027年度	2028年度	研究内容
1. 海藻着生状況調査	○	○	—	・ 潜水及び聞き取りによる着生海藻の調査
2. 有用海藻の選択と採取の持続性の検討	○	○	—	・ 食用又は産業用の有用海藻の選択と調査区の選定
	—	○	○	・ 定期的な刈り取りによる着生量の季節変化の把握と採取の持続性の検討
3. 漁獲対象化の検討	○	○	○	・ 漁獲及び商品化に向けた課題の整理
	—	○	○	・ 有用海藻の情報提供と活用の働きかけ

(作成 2026年4月)